**駐日ネパール連邦民主共和国大使**

**マダン・クマール・バッタライ閣下からのメッセージ**

ラーマクリシュナミッション事務総長 スワーミー・スヒターナンダ氏、

スワーミー・メーダサーナンダ氏、その他ヴェーダーンタ協会の方々、各国の閣下、

尊敬すべき友人のみな様

本日は素晴らしいヴィヴェーカーナンダ生誕１５０周年の式典にお招き頂きありがとうございます。今回招いて下さった主催者に心よりお礼申し上げます。このような素晴らしい機会に私を覚えて下ったことに感謝します。

ラーマクリシュナがヒンドゥ教とベンガル教の復興期を代表する最も重要な聖者であることからも、その偉大なる聖人ラーマクリシュナの最も重要な後継者であるヴィヴェーカーナンダの生誕を祝う式典が、同じくヴェーダンタ協会による５月１６日 のラーマクリシュナ生誕記念日に続いて開催されたということはとても意味のあることです。

ヴィヴェーカーナンダはヴェーダーンタとヨガの理解を深めるための新しい局面を特に西洋に教授した天才です。亜大陸と他の土地に住まう、違う宗教の異教徒に普及し続けた確固たる功績があります 。

ヴィヴェーカーナンダはヒンドゥ教の復活に貢献し、本質的な価値と寛容の精神について説き普及に努め、１９世紀には世界の主要宗教にまで地位を向上させました。その功績は、１９８３年９月に米国シカゴで開かれた世界宗教議会において確固たる ものになりました 。

ヴィヴェーカーナンダは同年、巡回講演のために東京を含めた幾つかの町や他の欧州諸国、また亜大陸を広範囲に渡って訪問して、聴衆から支援と称賛を得ました。

ヴィヴェーカーナンダは知識的にも力強い演説者としても人々を惹き付ける才能を持つ人物でした。学業成績が優秀であった学生時代には美術、論理、西洋哲学、ヨーロッパの歴史、そして更には音楽といった多面的な技術を熟練させました。

ヴィヴェーカーナンダが最初にラーマクリシュナに出会ったのは後者が死去する僅か５年前の１８８１年１１月、そこに来ていた人々に歌を披露し感動を与えようとスレンドラ・ナス・ミトラの家に行った時のことでした。

もう１つの点は、スワーミーが経験から学んだ批評と分析が意識を変えるということをあらゆる局面から考察した結果、時には批評に対して完全に無関心になる必要性を悟り、 その後ラーマクリシュナの熱狂的信仰者となったという点です。

スワーミーが３９歳という若さで死去したというのは悲劇ですが、その短い生涯の中で驚異的な達成をなしました。皮肉にも多くの偉大な人々が健康面での欠陥を備えていて、彼もまたその被害者の一人だったということです。現在、国家青年の日として祝福される１８６３年１月１２日のめでたい誕生日は 、有志が西ベンガルのダイヤモンド湾に浮かぶサガル島を含み亜大陸の各地で聖戦を開戦した日は 偶然にもマカル・サンクランティの日でもありました。

８０年代に５年間カルカッタに駐在していた時のベルルマスへの定期的な訪問とその他幾度にわたる訪問から、私はその町を第二の故郷と考えていると共に、スワーミーの人生と教義に大いに感激しています。私はヴィヴェーカーナンダ岩を訪ねる ためカンヤクマリにも行きました。

スワーミーは１８９７年５月１日この偉大なる聖者たる人物が世界に成した歴史的功績を讃える証しとして、ラーマクリシュナ使節団を設立しました。彼の偉大なる理想を信奉するラーマクリシュナと ベルルマトの主要軌跡であるダクシネーシュワル寺院がフーグリ川の２つの川岸にあり、最も高度な威厳をもって師弟間の相補性を表現していることは全く称賛に値します。

これらの言葉を持って私からスワーミー・ヴィヴェーカーナンダへの敬意と賛辞のご挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。